

福大の首藤さん

絶滅説の植物「イワキアブラガヤ」

DNA採取に成功

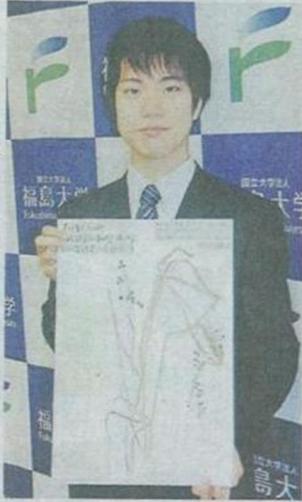
起源解明つながらる可能性

福島大共生システム理工学研究科博士課程前期一年の首藤光太郎さんは、本県で発見された現在絶滅したとされる植物「イワキアブラガヤ」の七十八年前の押し葉標本からDNA採取に成功した。イ

ワキアブラガヤは本県の固有種が北米に分布する外来種か学界で見解が分かっている。北米側のDNAとの比較により起源の解明につながらる可能性がある。

イワキアブラガヤは、大正十四年、磐梯町で最初に発見されたカヤツリゲサ科の植物。首藤さんは福島大に保管されていた昭和九年の標本から葉の一部を取り出しDNAの採取に成功した。

DNAを採取した標本を見せる首藤さん



古い押し葉標本は、組織中のDNAが断片化し採取は難しいとされていた。首藤さんは同研究科の兼子伸吾特任助教の助言を受け、プライマーと呼ばれるDNA配列を独自に設計することで短いDNA

Aの増幅に成功した。研究を指導している共生システム理工学類の黒沢高秀准教授は「今回の手法は、古い植物標本を用いたDNA分析に幅広く応用できる」と語った。